

11 住み続けられる
まちづくりを



12 つくる責任
つかう責任



キャンパスマスタープランの 策定

学生・教職員
協働

宇都宮大学では、①安全・安心な教育研究環境の基盤整備、②国立大学等の機能強化等変化への対応、③サステイナブル・キャンパスの形成、④戦略的な施設マネジメントの一層の推進、⑤多様な財源を活用した施設整備の推進という観点から、キャンパスマスタープランを策定しています。

【担当】
財務部施設課



11 住み続けられる
まちづくりを



12 つくる責任
つかう責任



環境系サークルと教職協働の 取り組み事例 (1/3)

学生・教職員
協働

1. 環境改善学生サポーター(ECHO)学内環境プロジェクト

1) 学内外のゴミ収集改善をはじめ学内環境改善プロジェクトを実施、サークル棟のゴミ箱の環境改善として、散乱防止のために、蓋つきのゴミ箱に取り替えるなど、ゴミ分別が学内のどこでもしっかり行われるよう、日々活動しています。また、リ・リパック（生産原料ペレットに加工して、もう一度容器として再生可能な容器のこと）の分別を行いやすくするために、回収容器の統一化を図りました。

2) 環境シラバスの発行

宇都宮大学の様々な講義の中から「環境」について学ぶことができる講義を取り上げた小冊子「環境シラバス」を大学学務部と協力して作成し、1年次オリエンテーションの際に新入生に配布しています。

【担当】
ECHO/学務部



11 住み続けられる
まちづくりを



12 つくる責任
つかう責任



環境系サークルと教職協働の 取り組み事例 (2/3)

学生・教職員
協働

2.環境系ボランティアサークル (LOMO)

LOMO は、学生の環境に対する意識の向上を目的として活動している環境系ボランティアサークルです。LOMO では、卒業生から不用になった家具、家電などを回収し、新入生や留学生向けに格安で販売するガレージセールを行っています。この活動は、ゴミの不法投棄などの環境問題に対して、学生として行えることはないか、といった考えのもと平成18年より始めました。新しい取り組みとして、平成29年の秋ごろから、古本回収を始めました。サークル内では、紙パックや自転車などの回収品目を増やす案も出ており、具体的な実施方法などを決め、LOMOの活動が環境改善に対して、より専門的で広い視野を持ったものとなるようにしていきたいと考えている。



【担当】
LOMO／学務部

11 住み続けられる
まちづくりを



12 つくる責任
つかう責任



環境系サークルと教職協働の 取り組み事例 (3/3)

学生・教職員
協働

3. 宇都宮大学生協学生委員会 (C.C.S)

C.C.Sは、宇都宮大学生が生活の中で環境を意識するきっかけを作れるよう、大学・大学生協と協力しながら活動を行っています。主として次の大きな3つの活動を通して、環境保護活動を実践しています。

1. リサイクルされる内製弁当の容器(「リ・リパック」宇都宮大学愛称Dappy!!)と割りばしの回収を行っています。

2. 好読会と称し、捨てるのではなく古本としてリユースするという考えのもとから、学生が不用となった本を集めて、自由に読める場を陽東キャンパス石井会館に作りました。

3. 身近なものから分別を意識してもらおうと、ペットボトルを用いた企画を考え実行しています。ペットボトルを捨てる際に、あるなしクイズを解いて当てはまるボックスに投函(投票)するというもので、その際には必ずラベルとキャップを外して分別するように、ポスターを用いて呼びかけを行っています。

【担当】
C.C.S/学務部



5 ジェンダー平等を
実現しよう



男女共同参画の取り組み

学生・教職員
協働

宇都宮大学では、男女共同参画基本法の趣旨に沿って、平成23年4月に「宇都宮大学男女共同参画宣言」をいたしました。平成24年10月には「男女共同参画推進室」を設置し、教育研究及び大学運営における男女共同参画を推進しています。

平成25年度～27年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」に採択され、女性研究者が出産・子育て・介護等のライフイベントと研究を両立するための環境を整備してきました。平成30年度「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」採択され、誰もが能力を發揮できる宇都宮大学を目指していきます。



夏オープンキャンパス リケジョカフェ
大学院生による研究発表

【担当】
男女共同参画推進室